礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行 編集
若松高校新聞部
印刷所
阪本印刷所　㊗1527

行事予定

五月中旬　中間考査
下旬　退避訓練
六月上旬　校内模試
下旬　期末考査
七月上旬　クラス・マッチ
中旬　若戸大会

またもや 信任投票
期待は大きい
四十六年度　前期執行部

＊ オリエンテーション・予算編成・歓迎遠足が無事にすみ、昨年度後期執行 ＊
＊ 部の任期が終り、いよいよ四十六年度後期執行部へと、その仕事が受け継 ＊
＊ がれた訳であるが、渡辺君を会長とする新執行部の選出は、前回と同じく ＊
＊ 信任投票という形で行われた。

去る五月一日、四十五年度後期生徒会執行部から四十六年度前期生徒会執行部へと、バトンが渡されたのである。

四十六年度前期執行部の構成は左記の通りである。

○　○
会長　二丁四　渡辺　俊文
副会長　二丁十　小森　道隆
　　二丁二　藤本　修子
書記　二丁三　高崎　幸代
　　一丁六　三隅　慎二
会計　二丁三　上野　裕子
　　一丁六　三木　茂生
○　○

最初の予定では、四月二十四日が改選日となっていたが、当日になっても、一人として立候補者が出ず、しかたなく四月三十日に延期されたのであるが、これも同じような理由で五月一日に延期、決定された。しかし、初めのうちは選挙管理委員会が呼びかけるのをよそに、立候補が少なく定員の七名は、投票日間近にやっとそろったのである。

立会い演説会は、体育館一階において行われた。しかし、演説を聞く立場の生徒には相変らず私語をする者が多く、ヤジまでとばす者もいたようだ。このような状態の中で、立候補者は簡単に氏名、公約を宣べ、それで会は例年通りの終り方をした。この会が終った後、体育館の床には紙くずが散乱し、ついさっきまで高校生が座っていたとはとても思えない光景であった。ここにも若高生の無関心さが表われてしまった。

五月一日の投票日には、今回も多くの生徒が、立候補者をはっきりと確認しないままに投票を行ったのであった。

立候補が少なかったことに先生方の間から「なぜ、みんな進んで出ないのか、信任投票は、あまり良いものではない。自分達の生徒会なのだから、もっと自分から積極的にならなければ意味がない」といった声が聞かれた。

本年度前期執行部は、今から生徒会の最高機関として仕事をしていく訳であるが、この新執行部には、今まではっきりしていなかった風紀問題や盗難、流会の続く専門委員会など、数多くの問題が投げかけられている。

今回の生徒会役員の顔ぶれは、二年生五名、一年生二名と、今までよりも二年生の数が増し、その活動にかける生徒の期待は大きいものである。

二年生の数が多いこの新執行部は、今までに取り残された問題を解決していこうと大きく羽ばたこうとしている。

真剣？に聞く生徒

十円でもあげて
部費不足を訴える
S46年度 生徒大会

入学して二日目を迎えた一年生を拍手で体育館に迎えると、すぐに生徒会執行部の司会によって、生徒会予算承認のための、生徒大会が行なわれた。この会は各クラブからの予算請求額を基にして、昨年度から執行部が検討し、作り上げた原案について、一般生徒からの承認を得ようとしたものである。

ところが、会は最初から乱れたというのも、執行部は、クラブ予算がどのように使われたかを記した資料を全員に配布していなかったためである。

しかし、ある二年生の意見によって、文化部から順に、各クラブの部長が、その使用方法について説明を始め、雑然とした雰囲気の中で会は進み、文化部も終りに近づいた時、吹奏楽部が予算不足を訴えた。その内容を要約してみると、吹奏楽部は楽器を必要としている。しかし、今の部費では、楽器を一つ買うと部費がほとんどなくなり、クラブとしての活動が鈍って来るので、部費をもっともっと増してほしいということであったが、この訴えは、いつのまにかうやむやになり、次のクラブの説明へと代わっていた。

やがて文化部の説明も終わり、体育部へと進んだのだが、今度は体育部全体が部費不足を訴え出した。体育部の場合は、一般の文化部と異なり、各部とも人数が多いため、部費でいろいろな物を買うことができず、個人負担が多くなるので、活動面において支障を生ずるようになるので、部費を上げてほしいと発言した。だが、一クラブの部費を上げるためには、他のクラブの部費を下げなくてはならないので、全体のクラブの部費を上げるためにも、毎月我々が納めている生徒会費百八十円を十円値上げして百九十円にしてはどうだろうかと、体育部のある者が発言した。この「十円」という言葉に賭けた彼の発言には、何か気迫が感じられた。この意見についていろいろな言葉が飛びかっていたが、宮脇先生（英語科担当）が、この意見に関しては、校則によりかってに生徒会費を上げることはできないと語られたので、この提案は却下されてしまった。左の表はクラブ予算と請求金額とを表わしたものであるが、これを見てもはっきりと判るように、前者と後者とを比べると格段の相違がありどの部においても部費不足であることが伺える。結局、すべてのクラブ予算は、執行部が作り上げた原案どおりに決まった。ところでこの生徒大会を振り返ってみるとどれだけの生徒が、この会について関心をもち、真剣に考え、承認しうることができたのであろうかあの雑然とした雰囲気の中で、ただ会は進み、終りすべてが承認された。これでよいのだろうか。

クラブ予算

	クラブ名	本年度	各部請求額
文化部	文芸部	23,120	84,000
	生物部	23,130	33,780
	物理部	27,880	33,900
	化学部	22,250	46,300
	地理部	6,020	43,820
	歴史部	18,500	18,500
	英会話部	16,330	18,951
	演劇部	49,295	28,040
	写真部	18,740	28,280
	音楽部	13,950	55,450
	新聞部	18,740	60,210
	茶道部	18,530	25,960
	華道部	12,800	18,300
	事曲部	12,650	26,300
	人形劇部	31,163	35,663
	映画部	16,430	28,760
	美術部	23,205	29,650
	吹奏楽部	43,950	66,415
	放送部	17,280	25,500
	書道部	10,750	25,250
体育部	野球部	178,550	158,550
	庭球部	92,850	191,120
	卓球部	42,910	65,730
	ラグビー部	141,950	132,450
	バスケット部	114,200	230,000
	排球部	96,600	217,300
	陸上部	86,670	326,410
	水泳部	32,075	32,075
	山岳部	37,500	54,500
	弓道部	43,675	100,000
	柔道部	35,500	57,500
	剣道部	121,650	153,510
	体操部	51,640	112,106
	ハンドボール部	93,950	93,950
	サッカー部	35,500	109,210

自由と規律の区別を
46年度 入学式

玄海の潮を見よ
石峰の雲を見よ
そして
想を練り
夢を抱け

これは四月九日に行われた入学式で紹介された「抱夢台」に刻まれた言葉である。多くの先輩達が悩み苦しみ、大きく成長して立ち去った抱夢台の足跡の上に今また多くの小さな後輩達が立とうとしている。そして彼らはあいにくの雨と重苦しい雰囲気に包まれていささか緊張したおもちでこの言葉を聞いていた。

静かな体育館内には四百五十名の力強いいぶきと不安と期待とが感じられた。そのような中で式は順調に進み、とどこおりなく終了した。

この入学式についての一年生の感想は、「校長の話が長かった」とか「世間一般の形式的な入学式であった」「式が全体的にみて短かかった」などと十人十色である。

その入学式から早や一ケ月。あの緊張感もだいぶほぐれ、一年生の高校生活はまだまだ楽しい時だ。緊張のほぐれたのはよいが、それに伴なって、規律のない行動もしばしば見られるようになってきたのはまことに嘆かわしいことだ。

精神的離乳期といわれるこの年頃にあたって、今一度集団生活の規則というものに目を向ける必要があるのではないか各自が考えねばならないことだ。

高校生になると、とかく「自由」という言葉をふりまわすようになる。髪をのばすのも遊ぶのも自由である。しかし、その自由は規律を伴なわねばならない。自由と規律の区別をはっきりつけた学生時代を送ってこそ意義があるのではなかろうか。

ニーソックスをはいて登校しているあなた、あの入学式の時の気持ちを思い起こし、校則を守るべきである。自由とは規律を伴うことで、校則を破ることではない。

自らの手で自治を
元生徒会長　田村君

昨年十一月に初めて執行部という仕事を始めた訳ですが、どうやら任期も切れたようです。

後期はマラソンや駅伝などの行事もありましたが、なんといっても大変なのは予算作成でした。直接皆さんに関係のあることなので十分注意しました。我々七人で原案を組み、予算委員会、代議員会を通して生徒大会へとはこびました。後のことは、皆さんが知っている通りです。この生徒大会での「会費を上げる」という事については、これから代議員会で討議していくつもりです。

次に、予算の内容ですが今年は実行委員会のための活動費を作りました。今まではこのような項目は作られていなかったので少しの進歩です。これで少しでも各委員会の活動が活発になるのならとてもうれしく思います。

この任期の間には、予算の他にしなければならない事が数多くありましたが、はっきり言って出来ませんでした。風紀委員会を開いても流会また流会。これでは何が出来るのでしょう。皆さんに考えてもらいたいのは、自分達の手で自治をしなければ、だれがしてくれるのかという事です。今、役員の改選中ですが、立候補者が出ないのです。執行部が無くなればどうなるか。行事の運営、風紀の取り締りが出来ず、生徒から職員の手に移ります。これでは生徒会本来の意味がありません。生徒会を自らの手で守りましょう。

未来をになって
森田校長

新学期を迎え、皆さんは新しい希望を持っていることでしょう。私もまた諸君のこの学年の活動を期待しています。人間は永い間の文化遺産を種々の形で子孫に残してきましたが、その伝承の一つとして、教育という方法をとったのです、そして次々にそれを受け継ぎ発展させることを望んでいるのです。その時、その方向を失ってはいけないと思います。人類が平和で幸福になるような方向に発展させることが、正しい方向です。ところが歴史を顧ると、その方向をたびたび誤ってきました。しかし私は信じています。人間の英知は、やがて人間を破滅から救うだろうと。

資本主義社会は自由競争を原則とし、幸福の追求が利潤の追求に形を変え、本質的に人間に疎外して戦為を起こさせる性格を持っているかに見えます。昔は労働は生産の喜びに直結していましたが。今や働く喜びが直接に感じられなくなっています。このことは人間にとって大変不幸なことです。働くことが自分にとって喜びにならなければ、本当の幸福はないと思います。社会の目的と個人の目的とが大きく一致する時初めて生々溌剌たる働きがでてくるのです。

皆さんは、今からよく勉強して秀でた学力と体力を養い、目を大きく世界に開いて、歴史的現実をふまえ、未来を予見し、その中で自分の高校生活のあり方を考え実践して欲しいと思います。諸君はもっともっと溌剌たる学園を作っていただきたい。日々努力を続けて自分の能力を発揮していただきたい。

諸君には、大きな可能性があります。やる気を出せば皆一流の人になることができるのです。そして各人がその力に応じて、人類の平和と幸福のために貢献してほしいと思います。

新プール完成

昨年以来、急ピッチに進められていたプール建設工事も終わって六月中旬のプール開きを待つだけとなった。

今までのプールは、危険性と設備不完全が問題となって、授業中ほとんど使用されなかったが、新プールは浄化装置も更衣室もすべて完備され、しかも、九コースという立派なプールである。プール開きは六月中旬の予定だが、六月上旬からすでに授業で使用されるそうだ。

この新プールができたのを機会に全生徒が有効に使用し、泳げるようになることを望む。

若高戯評

のどかな春

陽気のせいか、先生の声が…
―イネムリ常習犯―

礫陵言

▼最近紙上をにぎわせている青年法律家協会問題に発端した司法権の危機とか、中国卓球代表の対米態度から、にわかにあわただしい国際情勢等々、周囲には重大な問題があるようだ▼目を転じて若松高校でも希望に燃えた一年生の諸君を迎え、その諸君もしばらく学園生活に慣れ、外見も日増しに高校生らしくなってきた。見ていて楽しい風景だ。一ケ月も経ていよいよ本格的にクラブ活動に勉学に精進しようとしている。時も風薫る五月の青葉も目にしみる絶好の季節となった。新鮮な緑の若葉の生命力の躍動し横溢している様子を見るといかにもフレッシュな感じだ▼アメリカでは新入生をフレッシュマンと呼んでいるが文字どおり、新緑の若葉のようでうれしい言葉だ。何処の学校でも同じだがいく人かの不心得者が入学時の初心を忘れた行動に出るようだが、上級生、下級生を問わず常に新人すなわちフレッシュマンの気持ちで行けば現在の若葉よりはるかに優れた学校に諸君の手で作れるのではないだろうか。慣れることは非常に大切なことだが、初心を持続し常に新人である気持ちは更に大切なことだ。周囲を見よ、一瞬の休みもなく新しく新しく不断の向上進歩を続けている▼人間の数も年々増加し、地球上の土地も年々開発される。交通機関も建造物も機械もひとつとして退嬰するものはない。草も木も一本として下を向いているものはない。皆天に向かって伸びている。このように森羅万象ことごとく進歩発展している実体を見て、われわれ人間もまねるべきだ。学校も生徒も去年より今年、今年より来年とあくまで進歩向上すべきだ。このような観点より見れば如何に多くのおとなや学生達が何らの進歩もなく、相変わらずの考え方で行動し、変わりばえがしない。真の進歩とは何かを充分に考え、次元の高い思慮で若高の発展を計りたいものだ。（た）

格言

〃初心
忘るべからず〃

卒業生だより

甘くて苦い仕事の味
勤め始めて三ケ月
金沢千里さんの巻

日本鉄塔若松工場と金沢千里さん

四月一日に正式入社した私の配属先は、技術部鉄塔設計課というところです。でも、アルバイトとしての実習期間も含めると、勤め始めて三ケ月近くになります。皆さんは、卒業すれば勉強しなくてもよいのではないかと思っているかもしれませんが、私たちは数学や英語と無縁になったわけではないのです。特に若松では、生産量の半数が輸出用ですので、英語の設計書などを読む必要性から、関係者は週二回英語の講義を受けています。また、ある長さを求めるのに円の方程式も使い、果ては応力やイプシロンなどと、物理関係の言葉も飛び出してきます。この会社では男女同権なので、女性も男性と同じ仕事をし、私達女性にお茶くみをさせるというようなことはありません。お茶の飲みたい人は、好きな時に湯沸し室に行って、好きなだけ飲んでよいことになっています。（コーヒーもあるデヨ）とは言っても、同室の構造課と合わせて、女性七人に対し男性三十余人ですので、湯飲みの後かたずけは言われなくても女性がやっています。仕事は忙しく、とてもおもしろいのです。からす口でトレスしたり、写真場で青焼きしたりしていると時間のたつのを忘れてしまいます。しかし、苦手の算盤では失敗の連続で、今の仕事もチェックと言ってもう一度確認する時にかなり訂正され、仕事がおもしろいなどと言うと製図台に笑われそうです。でも、何の先入観もなかったせいか素直に仕事の内容を受け入れることができますし、またたんで含めるように教えてくださるのでとてもありがたく思っています。それなのに失敗を繰り返すので、自分が情けなくなることもしばしばです。今の私の課題は、仕事を確実に覚えることです。そのためにはメモを使うのですが、まだ充分ではなく、海の者とも山の者ともつかないからでしょうが、早く内容を理解し、仕事にとけ込んでゆきたいと思っています。さしあたって不満はありませんが、強いて言えばスモックのことでしょう。スモックというのは社内での制服のようなものですが、新しいスモックが秋にしかできないので、それまで先輩のスモックを着ているのです。小柄な私に合うのがなくダブダブで困っています。とにかく、実社会に飛び出して、精一杯やっている私ですが、若高の皆様も、勉強スポーツに若い力を思いきりぶつけてほしいと思います。そして、母校若松高等学校を、皆様方自身の手で名実共にすばらしい学校へと発展させていただきたいと思います。若いうちは、苦労を買ってでもしろという言葉があります。私達はしりごみすることなく、色々な事を体験し、自分を磨きたいものです。

皆で事故防止を！
歩行者プラス運転手
——S四十六年度春の交通安全——

四月五日から四月十日（前期）までと四月二十六日から五月一日（後期）までの十二日間は、昭和四十六年度春の交通安全福岡県民運動であった。この運動は、歩行者・運転者・運転者の雇主その他道路交通に関係のあるすべての者に交通安全思想の周知徹底をはかり、正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底をはかることを目的とした。

前期には、歩行者事故、特に子どもと老人の事故防止を目標とし新入学児童、園児の保護に重点をおいた。その内容としては、通学通園路における児童、園児の安全指導、これについては特に、新入生に力を入れ、一軒一軒家庭指導にまわった。又、幼児および小学校低学年児童に対する飛び出し事故防止のための安全確保を行なった。昨年度の小学生、幼児の交通事故者数は、十五件でそのうち七件が幼児であった。また七件のうち五件は横断中で、あとの二件は道路で遊んでいたということであった。それで、外でうろうろしていたり、危い所で遊んでいる子どもに対しては、家まで連れて行き、父兄によく注意するということも行なわれた。また若松区の今年度の四月に入ってからの小学生および幼児の交通事故数は、四件でいずれも飛び出しであった。幸いにもけがだけで死者はいなかった。そして先にも述べたようなことは、警察官や交通指導隊員・防犯組合・自治会など三百七十人が参加して行ない事故を極少数におさえ前期を終え、後期に入った。

後期では、行楽期における事故防止を主眼とし、飲酒運転・速度違反・その他の無謀運転の追放をはかる目的であった。飲酒運転防止には、会社や事業所等で酒類を飲まない、飲ませない慣行を確立し、祝宴とその他各種会合において車を運転する者に、酒類を出さないことを申し合わせこれを実践する。また、酒類提供業者の組織を通じて自動車等を運転する者には酒類を提供しない自主的活動を促進していった。それから、信号無視や速度違反、追越違反などの無謀な運転防止については、会社や事業所等で交通安全宣言を行ない職場ぐるみの交通安全活動を推進し、小学校は児童に交通安全の手紙を書かせ運転手に送ったりしている。

このように前期と後期に分け交通事故防止のために多ぜいの人々が一生懸命頑張っています。私たちも、「まだ疲れる」は「もう危ない」のスローガンを、車を持っていらっしゃる先生方には、「ヒャーッとしたあの一瞬を忘れるな」ということを胸に刻み、早く交通事故をなくしましょう！

働く交通巡視員さん頑張って

近くなった中国
以外に高いGNP

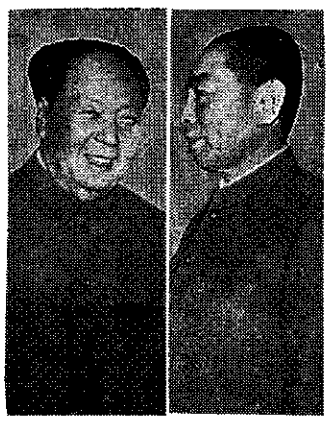
三月二十八日より十一日間、名古屋で行なわれた世界卓球選手権大会に参加した米国ほか五ケ国の選手団が中国に招待された。それ以後急速に米・中国両国間の外交政策が今までになく緩和されてきた。そこで、隣国でありながら我々に良く知られていない中国の市民生活を、昨年八月から今年にかけ中国に滞在した米人ジャーナリスト、エドガー・スノー氏の報告を参考に紹介することにした。

中国の人々はどんな生活をしているのだろうか？

全人民が毛主席バッジをつけ男女共ブルーやグレーの上着にズボン姿が多い。家では明るい色彩の衣服を着る人々も多い。一週間の生活は、週に六日は労働や毛思想の学習、技術の研究で忙しい。子供達のほとんどが就学している。休日には友人と卓球や水泳を、また家族とのだんらんで休日を過ごす。時々は勤労奉仕で「防空待避ごう」の穴を掘ったり、レンガを作ったりすることもある。

日本のように物価・税金・医療費などで悩むのか？

このような悩みを持つ人はいない。大都市や多くの町村では消費物資が一九六五年当時の価格よりもやや安いか、ほぼ同じくらいである。また穀物・食用油・綿製品などは配給制である。穀物・食用油などは、普通の家庭には多すぎるほど配給されている。工場労働者の医療費はそれぞれの組織が負担している。



中国人民に心から尊敬されている毛沢東（左）と周恩来

医薬品の値段は欧米諸国に比べると、問題にならない額である。産児制限用の経口避妊薬は無料で配布されている。しかし、現在中国の人口は八億に近づいている現状である。国民総生産は想像以上に西欧大国に近いが、一人当り国民所得において中国が貧しい国であることは事実である。

交通網は発達しているか？

中国には自家用車はないが、一家に少なくとも一台は自転車がある。都市のバスや鉄道網は、よく発達している。

青年に人気のある職業は？

圧倒的に人気のあるのは、陸・海・空軍の軍務に従事することで競争率十数人に一人という激しさである。

以上で中国の紹介を終るが、世界の注目を浴びている中国問題、まったく我々に関係ないとはいえない、真剣にこの問題を考える態度が必要ではないだろうか。

正確な判断で真の友を
主張

『高校生時代とは、青年期中期にあり、肉体的にはおとなとしてほぼ完成されてはいるけれども精神的にはまだまだ完成されていない時期である。従って、まだ精神的に不安定な時期であるだけにすることによって

"友"というものにすがろうとする傾向がある。そうなっているのではないのであろうか。

"仲良し"から"親友"へ、そしてさらに"真の友"へと生まれ変わっていくのであろう。それはちょうど、チョウの成長の様子に似ている。

さて、その"真の友"についてだが、それはどのようにして生まれてくるのであろうか？ すでにそう呼ばれるにふさわしい友を見い出している人も少なくないことと思う。が、それらは決して"真の友"を作ろうと思って作ったものではない。"友"というものは、気づかぬうちに見えない糸で結ばれている。その糸とは、趣味が同じだとか性格がよく似ているとか、また反対に性格がたゝ間、いやことではすぐれた人間と書くより、ただここで大切なことは、自然にまかせておいたとしても、自分自身の判断が正確でなければならないのである。つまり、人間を見る目を肥やしてほしいのである。誤まった判断によってすぐれた人間、いやことではすぐれた人間と書くより、自分にとってなくてはならないような価値ある人間と書くほうが、適当ではないだろうか。その価値ある人間を友人として見落とさないようにすることが必要である。では、人間を見る目を肥やすにはどうしたら良いのであろうか？ それは、いろいろな人間と付き合ってみるしかないのである。付き合うことによって先に述べたような自然に本能が働きかけ"真の友"を見い出すことであろう。また大いに人間に接し、その中から正確な判断、美しい心が選んだ"真の友"を見つけ出してほしい。

新一年生は、胸をときめかして、この若松高校に入学してきたことと思う。勉強もやらなければならない。もちろんクラブ活動もである。しかし、高校生時代にしかできないこともある。いや、高校生だからやっておかなければいけないこともある。それは、大いに人間を見つめ、大いに自分の目に挑戦し、そして"真の友"を見つけてこれからの三年間を楽しく過ごすことを望む！

教育者としてもっときびしく
投書

近ごろ、校則が以前に比べると、ほとんど守られていないような気がします。例えば、帽子をかぶらなかったり、禁じられた靴をはいて来たり、また頭髪については、生徒の自主的判断によって、きちんとすればよいということになっているにもかかわらず、堂々と髪を風になびかせて歩いている者も、少なくはありません。他にもいろいろと上げれば、たくさんあるのですが私の言いたいのはこんなことではないのです。この状態を見て見ぬ振りをしている先生方に言いたいのです。あなた達は、少なくとも教育者のはずです。体育館などで風紀に関する話をする時は、規則を破ることは絶対に悪い、というような言い方をしておきながらも、一歩そこを出ると後は何も言いません。登下校の際に、帽子をかぶらない生徒と出会った時、朝夕の挨拶だけではなく、そこに一言「御前はなぜ帽子をかぶってこないのか、きちんとかぶって来い」と言えば、この若高の雰囲気も自然と変わるのではないでしょうか、先生方は、生徒が誤った事を行なった時、それに対して、注意くらいしていただきたいのです。先にも述べたように、あなた方は、教育者であることを忘れてはいけないと思います。授業時間だけが先生方の教育者としての時間ではないと思います。先生方は、立派な若者を作り上げて行くことに誇りを持ち明日からでもいいのです。悪いことは悪いということばだけではなく、行動で示してほしいのです。そうでないと、先生と生徒とのつながりは増々うすれ、教育者である先生方が、自分の教養をお金と代えているだけの、どこのだれだか判らない ような、妙なおじさんになるような気がします。

二年

さようならデコマル君

四月三十日朝、日本にただ一台残っていたD50型機関車、通称"デコマル"君の最後の運転が行なわれた。我々のデコマル君さようなら、いつまでも元気でね。

舶来化粧雑貨　何でも揃って親切な
みだしなみの店
きねや
若松区本町三丁目五番三号
TEL(77)2651～2

服飾手芸専門の店
しらき
若松区明治町

有意義だったか？オリエンテーション

無意味だった遠足

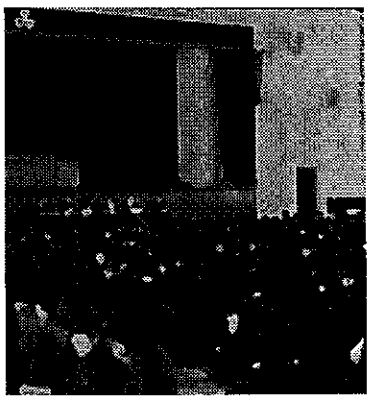
四月二十二日、素晴らしいコンディションに恵まれた中を、新入生の歓迎遠足が行なわれた。

区役所前を九時過ぎに、我々若高生を乗せたバス三十台が、一路香椎花園へと出発した。まさに若高生の大移動であった。

約一時間半の道のりをバスにゆられ、目的地につくと、二、三年生は拍手ではなく、私語で新入生を迎えた。雑然とした雰囲気の中で、諸注意が行なわれ出したのにもかかわらず私語はいっこうにやまなかった。新入生のための歓迎遠足であったはずなのに、二、三年生はそれを忘れ、自分の遠足と思っていたのではないだろうか。歓迎遠足、まさしく新入生のためであり、また上級生と下級生、クラスメートとの間で、親密さを増すための遠足であったはずだが、今度の遠足はその役割を十分に果していなかったようである。

そしてやっと解散になると、各々が弁当を食べる場所を求めて、さまよっていたが、この日は丁度幼稚園、小中学校などと重なったために、園内は混雑し落ち着く場所もなかった中を三時間以上もの時間を過ごした。定刻どおりにバスは香椎花園を出発し、無事若松へと向かった。この遠足で若高生の友好は深められたであろうか。

○…… 快晴に恵まれた香椎花園。我々は、この中で何を求め、何を見つけたのであろうか。 ……○



○ 体育館二階で行なわれたオリエンテーション ○
○ クラブ紹介は執行部が行なったが…… ○

無視された真の目的

去る四月十日午後より、体育館二階において、オリエンテーションが行なわれた。

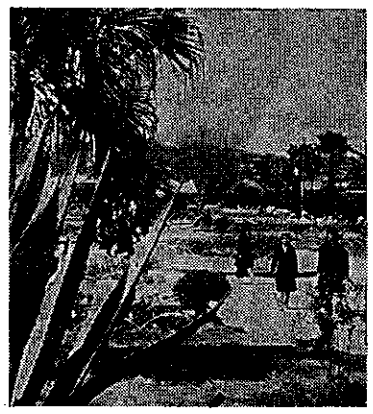
昨年とは形式も異なり、執行部と新入生との間で開催された。

まず合唱部の指導によって校歌の練習が行なわれた。新入生は校歌を歌いながら、若高生としての実感がわいたことであろう。

さて、オリエンテーションはいったい何の目的のために開かれているのだろう？

真の目的は、新入生に三年間の高校生活と青春時代を有意義に過ごしてもらうために好きなクラブに入ってもらいたい。それとともに、クラブ活動の意義を知ってもらうためなのである。

そして次にクラブ紹介。これは各クラブが提出した原稿を基に生徒会長が一言づつクラブを紹介、生徒会組織の説明と順次行なわれた。



それなのに、会長が各クラブを紹介しても各クラブの特色をあらわすことができるはずがない。新入生の中からも――各クラブの特色というものがわからないのでおもしろくなかった。――生徒会長がただ義務的にやっているようであった。と、このような声が聞かれた。もっと、新入生に、これから三年間過ごさなければならない若高について、理解できるような充実したオリエンテーションにしていきたいものである。

インタビュー

若高生は非協力的だ
―新入生のきびしい意見―

新入生が入学して日の浅い若高内で、我等新聞部は、学校の印象などいろいろな面にあたって、新入生にインタビューしてみた。

○　○

入学式の印象は？

―何か恐ろしかった。（男）

―なんとなく緊張しい。（女）

あなたは、どういう目的で若高に来ましたか？

―まだあやふやで、はっきりしません。（女）

―一生懸命、勉強するつもりで来た。

若高の雰囲気について？

―雰囲気はいいが、生徒会長が言っていたように、生徒自身が生徒会に参加していないという面では、やっぱり若高という気がする。

先生について感じた事は？

―何かつき合いにくい感じ（男）

―冷酷な感じ。（女）

―義務教育じゃないせいか中学校の先生とは違う。（女）

―生徒との交りがないような感じがする。（男）

上級生について感じたことは？

―だらしがない。（女）

―上級生なら上級生らしくきちんとして欲しい（男）

―今のままではたよりない。（男）

勉強とクラブは両立するか？

―両立すると思う。（男）

―やってみないとわからない。（男）

―絶対両立させて高校生活を楽しみたい。（女）

若高の風紀については？

―長髪は、ある程度規制した方がいい。（男）

―制服等は整っているが、気になるのは、長髪にしている人が、ほとんど帽子をかぶっていない（男）

―乱れている。（女）

―髪が長すぎる人を見ると不潔な感じがする。（女）

この前の生徒大会について？

―中学校の頃は、自主的に発表する人はあまりいなかったけれど、やっぱり高校となると自主的ですね。（女）

―なんとなく、くだらない事をしているみたいだった。（女）

―高校も中学も同じだね。（男）

―皆　自分達の生徒大会ということを忘れているのでは。（男）

生徒会について感じたことは？

―動きだけから言うと、何か生徒会が、協力という油なしに、カラ回りしているように思える。（男）

―皆、非協力的。僕の出身中学は人数が少なかったので、全校生徒をまとめるのは楽だったけど若高は人数が多いので全員が積極的に協力しなければ、まとまりがつかない。（男）

○　○

以上でインタビューの全部を書き尽くしたのだが、このような答えは、まだ入学して数週間とは思えないほどである。ある一年の男子が、「やっぱり若高」と、答えたが、その言葉は現在の若高を象徴しているようだ。一年生が現在の若高に「慣れる」前に、早く風紀や、その他の面を、上級生が改善する必要があるのではないだろうか。最後に一年生には、これから三年間、充実した高校生活を送ることを望みたい。

先生お願いします

【新任紹介】

毎年行なわれている先生方の職員異動が今年度も発表され、若高でも六名の先生方が、お去りになり、五名の先生方が着任された。

数年間、あるいは数十年間、我校の教壇に立たれ、我等の先輩をはじめ、私達も、お教えくださった先生方、また、若高生のために影の力となってくれた図書や事務の方々がお去りになり、その方々の行き先は次の通りです。

原田敏彦先生（御勇退）
福岡県粕屋郡粕屋町原町

山田輝彦先生（福教大）
若松区深町一丁目五番八号
鶴島正男先生（若松商業）
若松区西畑町九番六一号
白石純一郎先生（東筑高校）
八幡区永犬丸三ケ森五八一
中村真智子さん（小倉工業）
小倉区到津新町七番地
前田晴美さん（遠賀農芸）
若松区棚田町十一番七号

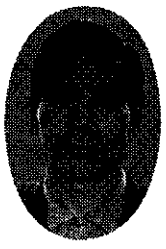
また、新任の先生方には、風紀などあらゆる面で若高を、より素晴らしい学校にしてもらいたい。なお新任の先生方には、出身された学校、担当科目あるいは仕事、それに若高や若高生に対する意見を一言ずつ述べていただいた。

松田　輝圀

○ 御病気のため不明
○ 国　語

先生は入学式以来、御病気のため写真ができなかったことを深くおわびします。先生には、早く御病気が直りますように。

鈴木　直人



○ 東京物理学校第一部高等師範科教学科
○ 数　学
○ 服装等は寛大であるのは諸子を信頼したものと思うので、自分の行動には責任と自覚をもつこと。

井上　忠憲

○ 明治工専（現在九工大）化学工業科卒
○ 三年物理及び化学
○ 立派な施設と静かな生徒諸君

徳野　伊勅

○ 熊本大学
○ 国　語
○ 上品らしいみなさんに、ある種のとまどいと、自分の淡い嫌悪感を感じています。頑張ります。

阿部　恭子

○ 福岡県立朝倉高等学校
○ 庶務一般（諸証明発行等）
○ 肩掛鞄がとても懐かしいです。そして、皆さんの行儀が良いのに驚きました。

「今の生徒会は低調ダネ」

社会科担当　西尾先生

絶好の行楽日よりの四月十八日、我々新聞部員六名は、宮丸のバス停から歩いて五分の教員住宅三階にある西尾先生のお宅を訪問した。

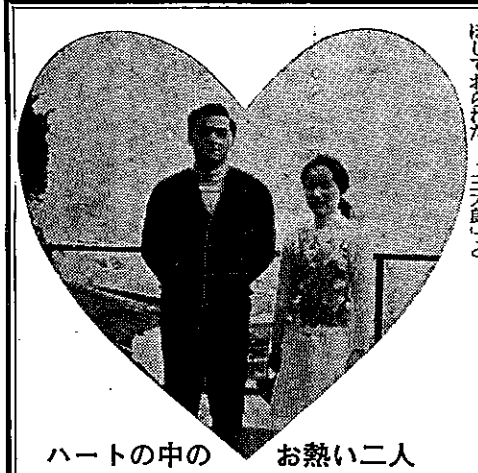
ブザーを押すと先生が出てこられ、ピアノ、エレクトーンが二台とステレオが置かれている応接間に案内された。窓から洞海湾沿いの工場群を見下し「夏なんか窓を開けておくと足の裏が真っ黒になる。」「子供たちの声がしわがれていて高音が出ません。（奥様はピアノなどを教えている）」とこぼしておられた。「三太郎」というの文鳥が人なつこく肩や手にとまるのを眺めながら質問を始めた。

―御出身地は―

直方市に近い鞍手郡宮田町というところ。

―先生になられて何年目ですか―

三年目。一年前若高に来た時採用されたんだけれど、その前に講師として鞍手農業高校にいた。



ハートの中のお熱い二人

―若高生について―

言―

前の高校が悪かったので行儀のよい高校生だと思ったが、ずるい人が中にいる。例えば掃除をなまける者など。自分たちで決めた事は責任を持って実行して欲しい。それに今の生徒会は低調だね。

―長髪について―

オカッパやビートルズみたいなのがいる。先生方の意見がまちまちなので、生徒会で長さを何センチまでというように決めてもらいたい。

―御趣味は―

特別にないがレコード（主に軽音楽）を聞くことなど。

―日曜日はどうお過ごしですか―

土曜日から二人で僕の実家に帰ったり（空気がとても良いから）釣りに行ったりしている。

―若高生について―

時々深夜放送を聞きながら勉強するが僕の場合、気が散ってできないとは感じない。

―学生時代の思い出は―

鞍手高校では、朝と放課後に補習があって、ほとんどの者が受けていたから必死で勉強した。同志社大学では寮生活が特に楽しかった。単位さえ取ればいいと思っていたから、本気で勉強したのは卒業論文を書いた時の三ケ月間ぐらい。

京都に東映と大映の撮影所があり、エキストラとしてやくざ映画に羽織袴の親分役で出たり、わんぱく君（五、六年前の番組）によく出たりした。

―奥様との交際のきっかけは―

同じ大学にいたから（クラブは茶道部で、NHKの「茶の湯」に二人の写っている写真があった。よく学生結婚と間違われるそうだ）。三年の女子クラスには独身と言っていっているから書かれると困るなあ―。

―好きなテレビ番組は―

食事中に歌の番組を見るか、スポーツ番組を見る程度で決まった番組は別にない。

―尊敬する人物は―

しいてあげれば、有名人じゃない人で、現在立命館大学の講師をされているI氏という方に学生時代大いに啓発された。

―好きな言葉は―

「真理は寒梅に似たり　敢えて風雪を侵して開く」という新島襄の言葉。

先生と奥様の学生時代のアルバムを見せてもらったり、雑談などをしていたが、六時近くなったので、下に降りて記念撮影をすることにした。下では曽根先生が、洗車をしておられた。まだ明るい青空の下で撮影を無事に終えると、そのまま先生御夫妻に見送られて、バス停へと向った。

文具・菓子
釜崎商店
小石峠若高前　TEL ⑯ 9045

龍そば
本町銀座 TEL ⑦⑦ 4320 / TEL ⑦⑦ 4047

正しい視力を提供する
各眼科御指定
アイチ眼鏡店
本町三丁目8―24　TEL⑯3312

今年も浪人優勢！
就職大企業に集中

「現在の若高生は勉強をしない」と、先生方は言われる。やはりその言葉が今年の進学状況に表われたようである。その原因としては、若高生が完全に「井の中の蛙」になりきってのんびりしすぎているというところであろう。またそれが若高生のいいところであるかもしれないが……。

あわただしかった四月も過ぎ五月に入ったが、今年もまた進路について考えてみよう。

下表にもあるとおり今年の合格者は国立一期は現役（以下現に省略）九名、浪人（以下浪に省略）三十六名となっている。そのうちわけを見ると、京都大が現一名、浪一名、広島大が現一名、浪二名九州大が現三名、浪十三名、九州芸工大が現一名、浪一名、長崎大が現二名、浪九名、鳥取大が現一名、岡山・熊本大が浪各二名、宮崎大が浪三名、一橋・徳島大が浪各一名となっている。これを見るとわかるようにやはり一番合格者の多い大学は九州大で、あと長崎大などがつづいているのは地元であるからであろう。

国立二期では現十八名、浪二十名となっている。うちわけは、山口大が現五名、浪八名、鹿児島大が現二名、浪二名、福岡教育大が現一名、浪一名、九工大が現四名浪四名九工大二部が現三名、愛媛大が現二名、東京商船大が現一名、島根大が浪二名、佐賀・香川京都工繊工大が浪各一名となっている。やはりこれも地元である山口大が圧倒的に多く、九工大、鹿児島大とつづいている。

公立では現六名、浪十七名でそのうちわけは、下関市大が現一名浪二名、北九大が現三名、浪十三名、北九大二部では現一名、税務大が現二名、横浜市大が浪一名となっている。ここでも地元の北九大がトップである。公立の女子短大では現七名で、山口女短・尾道女短・長崎県立短大が各二名で、県社保短・大分県立芸短大が各一名である。

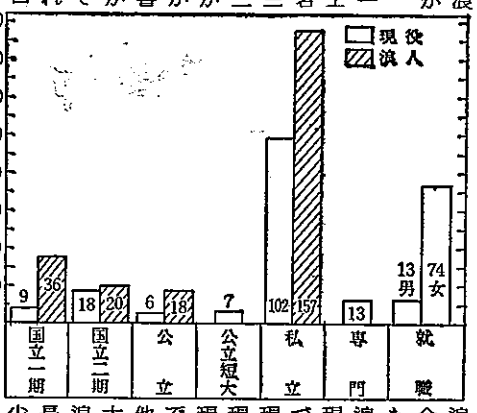
このように国立一期・二期、公立どれをとっても現役よりも浪人の方が圧倒的である。現役では一期よりも二期の方が、浪人では一期の合格者が多いのはおもしろい現象である。

さて、次に私立では現六十九名浪一五七名で、やはり浪人の方が合格者は多い。うちわけでは、最も多いのは福岡大で現二十四名、浪二十八名である。西南学院では現五名、浪二十八名で福岡大につづいている。また、同志社大では現二名、浪十六名、立命館大では現二名、浪十三名、早稲田大では現一名、浪十名とほぼ同数の人数で合格しているのもおもしろい。他には青山学院・慶応・駒沢・明大などが浪五名、法政大現一名、浪二名が合格している。日体大・長崎造船大・熊本工大などもとく少数であるがみうけられる。短大では現二十三名となっている。

専門学校には各種看護学校七名各歯科技工士衛生学校二名、九州電子計算機専一名、九州経理専一名、東京デザイナー学院一名、少し変わってリハリビテーション大が一名となっている。手に職をつけることもいい考えである。

次に就職のことを紹介しよう。就職された方は男子十三名、女子七十四名である。男子は日本板硝子や新日本製鉄八幡・安川電気など工員が多く、その他NHKに就職された方もいた。女子の方では福岡銀行や山口銀行・住友生命や若松信用金庫などの金融関係や、鶴丸海運や山陰海運、三九運航など運送関係、福山マンサルタント日本旅行会、商事会社、日本水産若松車輌、電々公社、井筒屋、大九楽品など種々様々である。

今年の進路はこのようであったがやはり今年もまた反省として勉強がたりなかったといわれる。最後に先輩のみなさんには勉強に労働に頑張ってほしいと思う。



風紀委員よ！もっと厳しくあれ

若高に縁ができてから、もう二十年が過ぎ去った。戦前に二十年といえば随分長い年月のように思えたものだが、戦後の二十年は実の間の思いである。何故だろうか？時間というものが所詮観念的なものだとすれば、己れ自身の裡にその理由はあるのであろう。ともあれ、過ぎ去ったこの二十年の時の流れの中に、若高のキャンパスに誉て在った多くのなつかしい樹々が亡び去って行った。それらの樹々の大半は、この学校創立の頃に植えられたものや、昔の卒業生たちが記念に残して行ったものであったに違いない。校舎が現在のような鉄筋の校舎でなく古い木造の校舎であった頃本館裏の中庭に四十年余を経た、根元から二又に分かれた大きなこぶしの木があった。早春の頃凡べての花木に魁けて、まだ緑もにじまない枯枝のような梢々に、少し恥じらいを含んだぼってりとした白い花が、早春の空気をいろどった。木の下に立って見上げるとその白い花びらの向うの青い空には、ほのかに春の色を匂わす雲が浮かんでいた。あのこぶしもとのキャンパスから永久に姿を消してしまった。いま中庭にただ一株、哀れな老残の姿をとどめている六十年余の樹齢を閲した吉野桜の古木は、この学校創立以来の歴史を知っている唯一の木かも知れない。嘗ては四方に広く拡げたうやうやかな枝々には、毎年四月になると、ふさふさと花をつけ、おぼろ月夜には、森閑としずまりかえった古い校舎に囲まれた中庭が、この世ならぬ仙境と化したものである。体育館前の今の新しい裏門が出来る前の古い門は、人の手で作ったものではなく、自然に人の足で踏み固められて出来たものであったが、それだけにすべて自然な趣があった。柵などしてなかった門なき門をはいると、小径の左右に高く枝を張ったアカシヤの樹が立っていて、風薫る季節に這入ると、びっくりする位急速に葉を伸ばし、短い藤の花のような房をなして、白い花があふれるばかりに咲く。晴れた朝の登校のひと時このアカシヤの樹の下にしばし佇むと、さして風もないのにハラハラと蝶形の白い花が、頭上に、又肩先に降りかかり、足元にこぼれ落ちる。このような時、いつまでもこのアカシヤの花の雨に濡れていたいなどと言ったら、歌謡曲的感傷だと人は笑うだろうか。然しもう、この五月の朝のアカシヤの雨にぬれる喜びも消え去ってしまった。今でもあの古い裏門のアカシヤの小径を思い出す人のありやなしや。

湮滅のうた

一年八組　主任　花田文男

毎回、この新聞には風紀問題を取りあげているが、一向にその効果がないようである。

そこで、今回は風紀委員の手ぬるい活動を反省してもっうためにもう一度取りあげることにした。

まず、長髪問題であるが、女子よりも長いような髪型をしている人が多く目につく。髪がえりに触れて、ふけなどが学生服についていたり、油で髪が、べたべたになったりして清潔さがまったく感じられない人がいる。一年生の中にも大部分の人がこれから髪を伸ばそうと思っているだろう。しかし"清潔さ"という言葉をひとりひとり自覚してもらいたい。

無帽登校の件については、長髪許可と深い関係があると思う。坊主頭の人は大体の人が帽子をかぶっているが、長髪にした人は大部分の人が帽子をかぶってない。こうした長髪許可から無帽登校が増えたことは、長髪許可に問題があるのではないだろうか。

それから、遅刻問題だがこれも前々から問題にされている。今学期より五分始業時間が延長されたが、これに伴って遅刻者の数はいったいどうなっただろうか。まだ新学期になって間もないから遅刻者は、あまり目立たないがこれから先が問題であろう。五分延長になったものの遅刻者数が以前と少しも変化しなければ五分延長は全く無意味である。

次に、バイクの問題であるが、最近はバイクの免許を取る人が増え、それに伴ってバイク事故が目立ってきた。バイクの免許を取ったならば交通規則を充分守って事故のないようにしてもらいたい。また、無免許で通学したり、あちこち乗りまわしている人がいるようだがバイク事故の大部分が無免許運転なのである。バイクに乗る以上は交通規則をしっかり頭に入れてもらいたい。そうしなければ事故は少しも減りはしない！

喫煙・飲酒などは法律ではっきり禁止されているにもかかわらず学生という身分で、この規則を破っている者が何人もいる。

このように、色々な方面で若高の風紀は乱れている。風紀委員会でもっと考慮し、積極的な行動が起きない限り、これらの問題解決の糸口は見つからない。一般生徒の協力と今後一層の風紀委員の活躍を望みたい。

お互いに規律を守ってこそ、住みよい若高になるのでは……。

これが……男子？

流行はくり返す
リバイバル

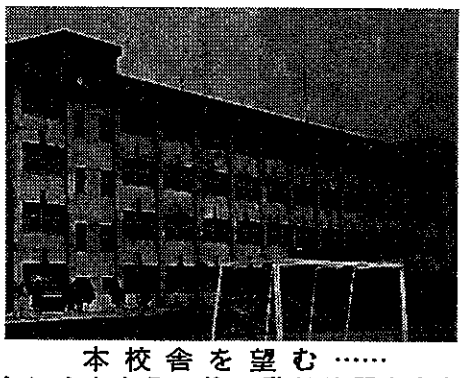
「どこの誰だか知らないけれど誰もがみんな知っている、月光仮面のおじさんは――。」と、時々ラジオから聞こえてくる。また、ミディ、マキシ、等という流行のスカートが、若松でも多く目につくようになった。近頃は、先のような昔のテレビ映画の主題歌が若者にうけて、それを集めたレコードまで売り出されているそうだ。また、後のようなスカートも一昔前に流行したものである。とかくミニだ、ホットパンツだ、ニューロックだと言われている現代において、このようなリバイバルムードは奇妙に思えるかもしれない。しかし、NEWなものが氾濫している今日において、昔のものが不思議といいように思われてくるのも当然であるかもしれない。

ここで我々の少年時代を思い出してみよう。少年時代から真面目に勉強している人以外は、すぐに日光仮面、少年探偵団、ハリマオ等のテレビ映画を思い出すであろう。そして、それらの主題歌を口ずさむと同時に、何か、昔のことの思い出にひたれるであろう。そのようなことから、初めに上げたような歌が流行しているのではないだろうか。現代の流行に、昔の流行がとり入れられているのを見ると、「流行はくり返す」と言えるのではないだろうか。

男女比40対1
一戸工の巻

新学期も始まってまもない四月十七日土曜日、我々新聞部九名は若戸大会などで我校とうながりの深い戸畑工業高校を訪問するために、昼食もそこそこに雨の中を出発した。

戸工は牧山電停より歩いて十五分ぐらいのたいへん見晴らしの良い高台にあり スマートな四階建ての校舎であった。昭和十三年三月三千一に創立され、全校生徒合わせて八七七人、そのうち女子が二十一人と、女子一人に対し男子約四十名という激しい競争率（？）である。男女交際はオープンであり、先生からの干渉はないというが、これではあまりにも女子が少なすぎるのでは？


本校舎を望む……

情報技術科というのは、一学年で機械関係、二学年でコンピューターなどの勉強をするのだそうで、来年には、二千五百万円相当のコンピューターが購入されるということだった。また、

他校訪問

ところで現在、我校でも重視され問題になっている風紀という点についていくつか質問してみたところ、盗難の件ではやはり我校と同じで全く対策がなく取られたら取りかえすというような状態だそうだ。長髪問題も厳しく注意されているようであった。また、バイク通学が禁止になっているということに生徒は大いに不満を感じているようだった。遅刻者はあまりいないとのことで、我々は大いに見習わなければいけない事である。

戸工では建築、電気、機械科と、新しく設立された情報技術科の、四つのコースがある。

情報技術科というのは、一学年で機械関係、二学年でコンピューターなどの勉強をするのだそうで、来年には、二千五百万円相当のコンピューターが購入されるということだった。また、特別教室が数多く見られ、そこでやる作業の話など初めて知ることばかりでたいへん興味深かった。校舎内は良く掃除がゆきとどいており、紙くず一つ落ちていなかった事には大いに感心した。我校の生徒の中には信じられない人もいることであろう。

体育館、廊下では野球部や庭球部などが懸命にクラブ活動に励む姿が見られた。しかし、現在のクラブの活動状況は一応全員参加となっているにもかかわらず、五割しか参加していないということだった。現在クラブ数は運動部が十、文化部が九、同好会が七、その中でも文化部に自動車部という聞きなれないクラブがあった。このクラブは自動車について色々と研究したり、自動車に乗ったりするということだった。もちろん一年生から車に乗れるということでたいへんうらやましいクラブであったが、この日はあいにくの雨のため我々は見学することができなかった。その他、生徒会は割合活発に活動しているとのことで、一応我々は、見たり聞いたりの訪問を終え帰途についた。

◈編集後記◈

「皆さん、御入学おめでとうございます。」といわれてもう一ケ月になりました。皆さんは、もう若高の校風にもなれたことと思います。また、新一年、新三年の皆さんもそれぞれの学年としての態度も身についたでしょう。そこで、今回の新聞では、入学式の模様をお伝えし、また、新入生の皆さんにその模様を思い出してもらおうと企画しました。また、遠足の様子や今年卒業された先輩の進路状況、生徒会の実態や風紀の問題、他校、先生宅、などを訪問した様子など数々の記事を企画しました。

新刊　雑誌
辞書　参考書
石松書店
本町銀座　TEL ㊻ 2415

広く・明るく・美しくフレッシュ丸柏
若松
柏丸柏
本町3丁目　TEL ㊻ 1231

DPE カラープリント 撮影
ダイワ写真工芸
若松区上原町（若松高校前）
TEL ㊼ 3173